

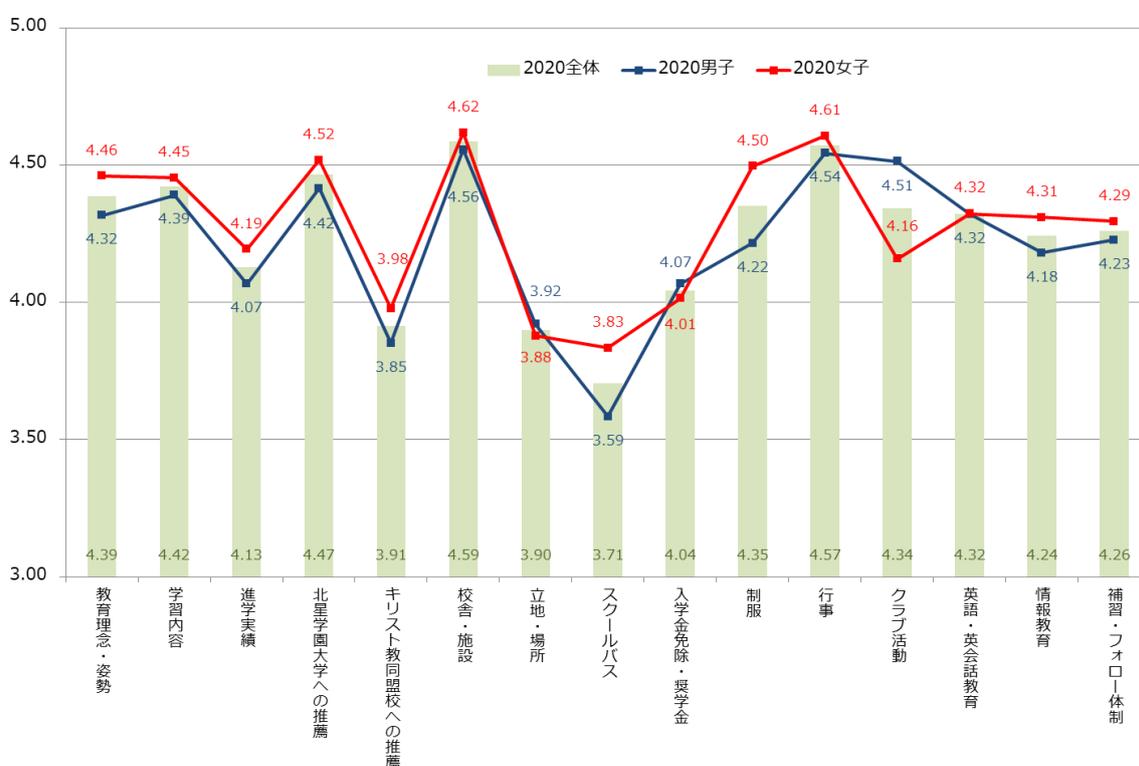
2021年度 北星学園附属高等学校に関する第三者評価

はじめに

本校は、評価（第三者評価）は、コアネット教育総合研究所研究員川畑浩之氏を評価委員に委嘱して実施した。入学時のアンケート調査と年間数回の訪問でのヒアリングなどを委託した。以下、氏のレポートを抜粋して報告とする。

1. 入学者アンケートの結果（2021年4月実施）

（質問：本校を受験するにあたって魅力を感じた点は何か？）



2021年4月の入学者を対象とした「アンケート」では、「本校を受験するにあたり魅力を感じた点は何か」という項目の回答である。評価されていた点は「英検などの資格指導」、であるが「情報教育」も前年度と比べて上がってきている。設備投資は十分に行われてきたので、いかに有効に活用するかを、全教科で研鑽していくことが望まれる。

今後、構想している教育プログラムが、どのように形作られるのか、同時に外部に発信されるのか注目したい。

また、スクールバスへの期待が上昇してきていることは、コロナ禍で公共交通機関を使用することを避けているのか、ネット社会によって学校と自宅の往復でも、生徒間が交流できていることが暗示されているかも知れない。

生徒が求める教育に対して、推進できる環境づくり、教職員の意識の涵養は必要となるだろう。

～ 選ばれる私学となるべく、生徒への意識調査を手掛かりにして、教育の見直し

2. 期待される教育を創造し実践するための取り組み

本校はキャリア教育の一環として「探究」の学習活動を推進しており、本校の魅力のひとつである。今後、高大接続改革の方針や ICT 利活用型の授業の取り組みなど、新しい学力観に基づく教育を推進している途上にある。

管理職へのヒアリングでは「現在、本校はキリスト教育の精神に基づき、大学の附属高校としての存在意義を確認しながら、教育の点検と見直しを行っている。例えば「課題として取り組みたい事柄について、いくつかのワーキンググループ（以下 WG）を作り、全教職員がどれかの WG に所属し、学内で討議を重ねている」と報告があった。これらの取り組みを通して、教員全体が意識を持って学校の改革を担っていくことを期待する。

テーマをもって、夏期、冬期には、教員全体で研修を行い、ICT を活用した研修会への参加など、意識をもって各担当者が研鑽をした。

また職場での情報共有や働き方改革の一環として、ICT 利活用により、協働や業務の効率化を図ることをねらいとした仕組みづくりを模索している。働き方改革を後押しするように、さらにこれらの点を進めることが大切な改善活動と言えよう。

（文責：コアネット教育総合研究所 川畑浩之）